

平成31年・令和元年（2019年）の白山の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

3月と12月に山頂付近を震源とする火山性地震が増加するなど、ときおり地震増加がみられましたが、火山活動が活発化する様子はみられていません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2019年の発表履歴

2019年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○2019年の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図2～3）

3月6日7時から9時台及び21時から22時台にかけてと、12月27日5時台に、山頂付近の深さ4km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。3月6日の日地震回数は59回で、最大のマグニチュードは1.1、12月27日の日地震回数は68回で、最大のマグニチュードは1.0でした。この地震活動については、発生した地震の震源が深いこと、また低周波地震や火山性微動が観測されていないことから、火山活動は活発化しておらず、これまでも時折みられていた一時的な地震増加と同様の活動とみています。

その他の期間では、地震活動は低調に経過しました。

低周波地震や火山性微動は観測されていません。



図1 白山 山頂部の状況（12月25日 白峰監視カメラによる）

この資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act-doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

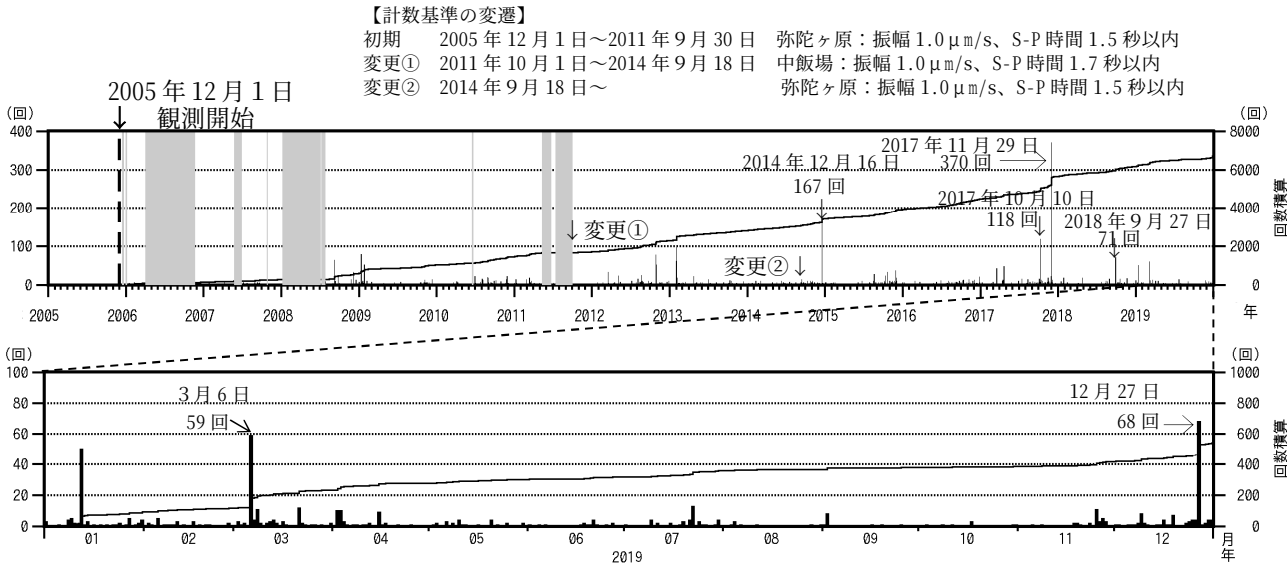


図 2 白山 日別地震回数
上段：(2005 年 12 月 1 日～2019 年 12 月 31 日)
下段：(2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日)
図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

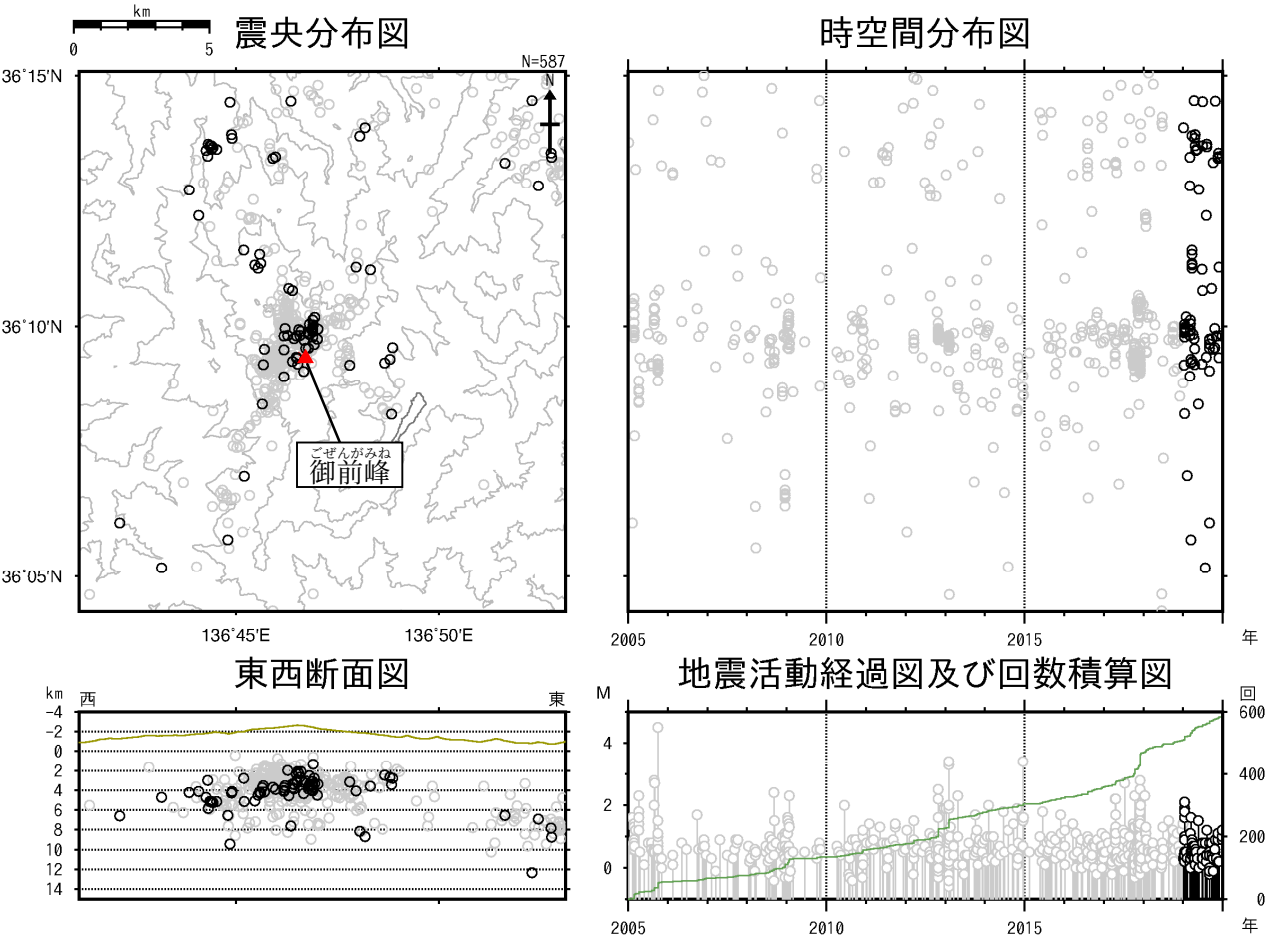
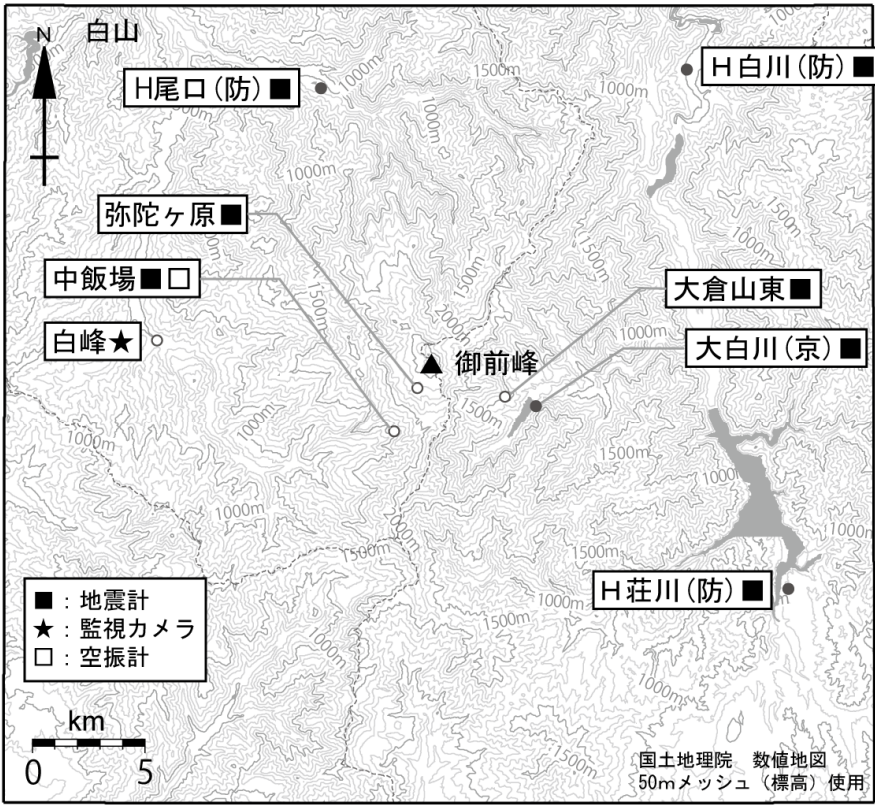


図3 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2019年12月31日）

○：2005年1月1日～2018年12月31日 ○：2019年1月1日～12月31日
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
・白山付近の地震活動は低調に経過しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図 4 白山 観測点配置図

表 1 白山 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	弥陀ヶ原	36° 08.78′	136° 45.86′	2345	0	2005.12. 1	
	中飯場	36° 07.72′	136° 45.17′	1540	0	2011.10.1	
	大倉山東	36° 08.60′	136° 48.45′	1603	-2	2016.12.1	広帯域地震計
空振計	中飯場	36° 07.72′	136° 45.17′	1540	2	2011.10.1	
監視カメラ	白峰	36° 09.92′	136° 38.10′	527	5	2010. 4. 1	